

世界史探究後期第6回

冷戦の変容・終結と経済のグローバル化

1. アメリカ合衆国の覇権の動揺と冷戦の変容【教p364～】

- (1)ベトナム戦争の終結とアメリカ
 - 1969年 アメリカはベトナムへの軍事介入を縮小
 - 1973年 パリ平和協定締結 ベトナム撤退
 - 1975年 北ベトナムがサイゴンを陥落させる
 - 1976年 ベトナム社会主義共和国成立
- (2)ドル・ショックと国際経済体制の変容
 - ベトナム介入によりアメリカの貿易収支が赤字に転落
 - ドル危機がおり、ニクソン大統領はドルと金の兌換を停止する(ドル・ショック)
- (3)石油危機とサミット
 - 1973年 第4次中東戦争
 - アラブ石油輸出国機構(OAPEC)の輸出制限
 - 石油輸出機構(OPEC)の原油価格4倍増
 - 第1次石油危機(オイル・ショック)
 - 1979年 イラン革命後、革命政府が石油供給を削減 価格上昇
 - 第2次石油危機
- (4)近代科学への問いと技術革新
 - 原油価格高騰→原子力への関心高まる
 - ※1979年3月、スリーマイル島原子力発電所事故
 - 1986年4月、チェルノブイリ原子力発電所事故
- (5)ソ連のアフガニスタン侵攻と冷戦の変容
 - 1979年12月 ソ連がアフガニスタンに侵攻
 - アメリカレーガン政権が「強いアメリカ」をかかげ軍備拡張
 - 新冷戦のはじまり
 - アメリカ：「双子の赤字」(財政赤字と貿易赤字)が深刻化
 - 1985年には世界最大の債務国となる
 - ドル高是正と為替レートの調整(プラザ合意)

2. 冷戦の変容と世界の諸地域【教p368～】

- (1)日本の経済発展と東アジアの民主化
 - 1970年代 N I E S (新興工業経済地域)が発展
 - 1972年 日中国交正常化 田中角栄首相訪中
 - 1978年 日中平和友好条約締結
 - 1980年代 対米輸出が急増→アメリカとの間に貿易摩擦が激化
 - 韓国：全斗煥、盧泰愚の軍事政権が工業化をすすめる
 - 1980年 光州事件
 - 台湾：1988年 李登輝が総統に就任
 - (2)中国と西側諸国、改革・開放政策
 - 1970年 カナダと国交を正常化
 - 1971年 キッシンジャー訪中
 - 1972年 ニクソン大統領訪中 米中和解
- 文化大革命終結後
華国鋒が「四つの現代化」を提起、鄧小平が推進→改革・開放政策へ

- (3)アジアの社会主義国
 - ベトナム：1979年中越戦争後、孤立
 - 1986年 開放経済政策(ドイモイ)実施
 - カンボジア：1993年 カンボジア王国樹立
 - 1998年 ポル・ポト死去
- (4)南アジアの政治変動
 - 1971年 第三次印パ戦争
 - 東パキスタンがバングラデシュとして独立
 - 1966年 インディラ・ガンディーが首相就任
 - 1984年 インディラ・ガンディー暗殺
- (5)イラン革命とイスラーム復興運動
 - 1979年 ホメイニーを指導者とするイラン革命により、イラン・イスラーム共和国樹立
 - 1980年～イラン＝イラク戦争
- (6)ラテンアメリカの累積債務問題
 - チリ：1970年、アジェンデが史上初の選挙による社会主義政権樹立
 - 1973年、ピノチェトの軍事クーデタで倒れる
 - 70年代はブラジル、アルゼンチンなどの国で、軍事政権による支配がつづく
 - ※こうしたなか、現地のカトリック教会のなかに、民衆の解放のために社会改革運動に積極的に参加すべきだとする「解放の神学」が台頭

3. 冷戦の終結とその後の世界【教p372～】

- (1)ソ連の改革と冷戦の終結
 - 1985年 ゴルバチョフが共産党書記長に就任
 - ペレストロイカ、グラスノスチをかかげ改革を実施
 - 1987年 中距離核戦力(I N F)全廃条約をアメリカと締結
 - 1989年 アメリカのブッシュ大統領とマルタ島で首脳会談
- (2)ソ連圏の崩壊
 - ポーランド：1980年 ワレサが率いる自主管理労働組合「連帯」がストライキを行い政府にその設立を認めさせる。
 - 1989年 「連帯」合法化、総選挙圧勝
 - 1990年 ワレサが大統領就任
 - 東ドイツ：1989年 ベルリンの壁が開放
 - 1990年 西ドイツが東ドイツを事実上吸収する形で統一ドイツ成立
 - ハンガリー：1989年 複数政党制導入
 - ルーマニア：チャウシェスク大統領処刑→新政府が組織される
 - ソ連の解体：1991年 ロシア、エリツィン大統領就任
 - ロシアやウクライナがソ連の消滅を宣言
 - 独立国家共同体(C I S)創設
 - モンゴル人民共和国：1992年 社会主義体制から離脱し、国名をモンゴル国と改称
- (4)ヨーロッパ統合の進展
 - 1992年 マーストリヒト条約締結
 - ドイツで財政負担とインフレ懸念から高金利政策が維持される
 - 1993年 ヨーロッパ連合(E U)形成

4. アメリカ合衆国の復調とグローバル化【教p375～】

(1) アメリカの復調と課題

1990年代初頭 ブッシュ政権、クリントン政権で経済収支改善
「双子の赤字」解消へ

(2) 湾岸戦争とパレスチナ問題

1990年 イラクがクウェートに侵攻
1991年 多国籍軍がイラク軍をクウェートから撤退させる→湾岸戦争
1993年 パレスチナ暫定自治協定（オスロ合意）
PLOのアラファト議長とイスラエルのラビン首相による
1994年 PLO主導の自治政府が誕生

(3) 東南アジア・南アジアの経済発展と民主化

1999年 旧ポルトガル領ティモール、国連主催の住民投票で独立決定
2002年 東ティモール民主共和国成立

(4) 継続するアフリカの内乱と貧困問題

ソマリア：1982年から内戦開始、91年に反政府勢力が首都を制圧
ルワンダ：1990年から内戦開始
南アフリカ：1991年 黒人隔離諸法撤廃
1994年 マンデラ大統領選出

21世紀の地球的課題と人類社会

1. グローバル化にともなう世界の変容【教p379～】

グローバル化と地球的課題

- 第一：エネルギー、環境、食料、衛生、貧困、ジェンダーなど
地球的諸課題が共有され、持続可能な発展（サステナビリティ）を保つ
- 第二：貧富の差の拡大
- 第三：情報通信分野の技術革新によるグローバル化の一方で、国家が安全の倫理を用いて社会統制を強化

2. 地球的諸課題【教p380～】

(1) 環境問題

大気汚染→酸性雨 オゾン層の破壊→生態系に影響
温室効果ガスの大量発生
→地球温暖化により気候変動や海面上昇をもたらしている。

※南太平洋では、地球温暖化にともなう海面上昇により水没する可能性のある島々が存在する。

1992年 国連環境開発会議（地球サミット）開催
アジェンダ21とリオ宣言が採択 「持続可能な開発」が示される

1997年 COP3で京都議定書を採択

2015年 COP21でパリ協定採択

(2) 宇宙開発と国際協力

冷戦終結後、アメリカとロシアによる宇宙開発はやや鈍化
→中国が台頭

(3) 医療の発達と身体

臓器移植において、臓器を自ら再生する技術が進展
→iPS細胞（人工多能性幹細胞）は、体細胞に特定の遺伝子を注入することによって、多様な臓器、組織へと分化、成長させていく技術。

※21世紀のエネルギー

- ・風力発電、地熱発電、バイオ燃料の開発→価格に与える影響が懸念される
- ・アメリカなどで生産されるシェールガス、オイルの開発
→原油価格が高い場合に特に多く利用されるようになっている。

3. 新たな秩序変容【教p383～】

(1) アメリカの覇権の動揺

2001年 9.11事件：アルカーイダによるテロ
→G.W.ブッシュ大統領はアフガニスタンを攻撃
2003年 イラクが大量破壊兵器を保有し、国際テロ組織を
支援しているとして攻撃→イラク戦争
→サダム・フセイン政権崩壊

2004年 オバマ大統領はアラファト議長死後ハマスとの対話をうかがう

2009年 カイロ大学での演説でアラブとの信頼醸成をうったえる。
イランとの話し合いをすすめつつ、アラブ諸国とイスラエルの管家改
善をめざす

トランプ大統領は、基本的にその路線を継承し、アフガニスタンやイラクなど
からの撤兵をすすめつつ、イスラエルとアラブ諸国との国交樹立などを支援。

4 次の問いに答えなさい。【教p384、388】

- (1) 2003年にアメリカがイラク戦争をおこした際に主張した理由を説明せよ。
- (2) 所得分布と国民1人あたりの所得の伸びを示したグラフで、エレファントカーブといわれる曲線が描かれるようになっている理由を述べよ。

5 論述問題

世界史探究の学習の中で印象に残った歴史的な事象を一つあげ、それについて自分考えを述べよ。

6 レポートのふりかえり を忘れずに。

7 世界史探究の学習のふりかえり も忘れずに。



第37回

ソ連・東欧の現代史と冷戦終結



第38回

経済のグローバル化



第39回

中国の台頭と多極化



第40回

探究4 地球的課題と世界史